

2022年6月 (No.396)

主な内容とページ

動き出した日系半導体ユーザー	1
世界市場で存在感薄らぐ日本の半導体市場	3
海外製半導体が日本市場を席捲	4
半導体生産サイクルと合わない需要	5
販売形態も変化、商社中心から直販、ネットなど増大	6
21年度、半導体大手6社は売上22%増、利益率16%	6
中堅15社は売上23%増、利益率12%	7
わからないことがわかった(SRLだより)	10

動き出した日系半導体ユーザー

わが国では、目立たない受け身の姿勢の存在だった半導体ユーザーが、外部に発信するようになった。

1. 過去2年におよぶ半導体の品不足が解消されず、買い手のユーザーが打撃を受けている。安定した調達や将来計画などを公開することで、影響を押さえることがねらいとみられる。
2. 背景には、かつて世界的に有望市場だった日本市場の地盤沈下が影響している。存在感は薄くなり、わが国自動車関連、産業用機器ユーザーも、この波に引きずられ、積極策を打ち出すことで難局を乗り切ろうとしている。
3. この動きが日本的な購買方法から世界共通の方式の採用などサプライチェーン全般に変化をもたらす可能性があり、わが国特有の商社を主体とした形態も影響を受けそうだ。

わからないことがわかった

半導体に関わって半世紀余り。一つの結論は「わからないことがわかった」ということだ。半導体産業がこれからどうなるのか、常に考えてきたつもりだが、今のような「ファウンドリ-ファブレス」全盛時代が到来するとは思わなかった。日本がこれほど衰退するとも思わなかったこともある。

本誌米国側執筆者のフレッド・ジーバー氏は10年ほど前に同様に半世紀を迎え、冒頭の言と同じことを言っていた。お世話になったわが国業界幹部も、同じようなことをもらし、先を読むのは難しい世界であることを教えてくれる。見方を変えれば、これが半導体の凄ところ、秘めたる巨大なエネルギーではないかと思う。

これからどうなるか、安易にみてもいけない。大事なものは、世界的な視野でよくみて、変化をかぎ取り、素早く対応する。柔軟に大きな視野で、取り組み、革新革命を現実のものとする。これが半導体では、とりわけ大事で、固定概念にとらわれ、硬直的なやり方はダメ。年を取らせない、取らせてくれない世界なのかも知れない。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。

2022 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2022 年 6 月 (毎月 1 回発行) 第 33 巻 6 号 (通巻 396 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒188-0014 東京都 西東京市 芝久保町 3-1-35

TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023

編集・発行人/大竹 修

© (株)SRL 2022

SRL Monthly Report

June 2022, No.396

Semicon Research Ltd.

3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014 Japan

Mail: info@semiconresearch.co.jp

Publisher/Editor Osamu Ohtake

購読料金 1 年分 (12 号) 98,000 円 (税別) 107,800 円 (税込み)